

アナウンス部門

渡邊あゆみ様

"普通に""自然に"伝えられるよう発声に留意しましょう。校内向けなので"身内"が視聴者ではありますが、リスナーの興味と理解を促進するような短文構成を心掛けましょう。その方が息も続き、アナウンスもしやすくなります。一文がうねることの無いように。あくまで読みは最初の一文字一語が高く、文末に向かってなだらかに下りていくイメージです。『伝えたい』という思い・熱意が声を前に出させます。

熊野リカ様

中学生以上に堂々と自信を持って取り組んでいる人が多くそれだけの成長を感じます。今年のアナウンスで感じたのはイントネーションが平板が人が多いのかなという違和感です。若者言葉の影響なののでしょうか？どこを聞いたらよいかわかりにくくなっていると思います。是非もともとの言葉のイントネーションを大切に伝えてほしいと思います。また、是非「聞きたいな」と思う原稿作りをしてください。何を話そうとするのか、出だして知りたいです。話すそばから消えていくという特徴を持つ"話し言葉"。その特徴を考えた原稿作りができるとよいかもかもしれません。

教員審査員

工夫して楽しい原稿を書いている人が多くいました。その一方でわかりにくい表現の人もいたので「伝えるための表現」を考えましょう。作った声ではなく、友達と話すときのような自然な声を心がけましょう。不自然な音の高さ、長すぎる間、遅すぎるテンポにならないよう気をつけてください。マイクの適切な距離を研究しておきましょう。

朗読

秋元紀子様

皆さん全体的にレベルアップしているように思いました。ただ、自分を納得させる読みではなく人に伝える聞かせる読みになってほしいです。語尾の「た」,「です」,「ます」と自分に引き取らず、相手に渡すようにしてみてください。語尾が消えないようお願いしますね。また物語の中に集中し、具体的なイメージを追って、語っていきましょう。セリフでは相手との方向と距離を考えるように。さあ自分の思い通りに楽しく表現してみてくださいね。

教員審査員

- ・登場人物の距離感・季節など場面設定を大切に。
- ・どの一文のどの言葉が大切か。たった 2 分でどこが大切かをきちんと理解して伝える。
- ・耳を鍛えよう！
- ・聞き手をどれだけ引き込めるかに心を配ろう。
- ・土台をしっかり作りましょう。魂を込めて読もう！
- ・自分が読む作品は 100 回ぐらい読もう。
- ・朗読・アナウンスはチームプレーである。一人だけでやっているのではない。
- ・場面が浮かぶところを抽出しよう！

- ・朗読作品をしっかり聞いてみよう！
- ・名詞は「色」をつけないこと！
- ・テンポ・チェンジオブペースに工夫を！
- ・朗読は設計図を作ってから読もう。

## テレビドキュメント部門

西村光弘様

今回も高校生らしい様々なテーマの力作が並びました。震災から昆虫食、そして「壁ドン」まで、今どきの高校生がこんなふうにも物事を見て、感じているのだと改めて発見し、そしてそれぞれがしっかりとドキュメントになっていました。忙しい学校生活の合間によくぞ制作してくれたと思います。自分の中でテーマを選び、取材を進め、作品という形で伝える。その楽しさをこれからもチャレンジし、いい経験にしてもらいたいです。この中から未来のテレビドキュメンタリストが生まれたら最高ですね！

教員審査員

- ・テーマを説明していて制作者の意図が伝わらない作品があった。
- ・上位の作品はテーマに対する制作者の思いが素直に表現されている
- ・全国推薦作品と下位の作品の差が大きい
- ・インタビューの録音の音質レベルが悪い作品がある。映像作品でも音を注意して扱うこと。
- ・震災を扱った作品の扱い方。体験したこと感じたことを番組に盛り込むとよい。
- ・インタビュー対象の表情・様子を映像で示すとよい。
- ・インタビューのカットが長すぎる作品があった。

## ラジオドキュメント部門

倉林由男様

『音の世界は面白い。音で人々の心を動かすこの部門はとても面白い』ことの点をわかっていただいてエントリーが少し増えているのはとてもうれしいと思います。音はチキンと録ってください。インタビューは相手の目を見てしっかり録りましょう。編集したら自分たちで何度も聞いて『初めて聞く人の心に飛び込んでいけるか？』を考えてください。0.1秒の違い、音の順番などで意外なほど効果が違うものです。ここに気付けばあとは皆さんの自由自在。『音』で『人』を動かしてください！がんばって！

教員審査員

- ・時間が限られているのでテーマから離れないように注意するとよい。
- ・インタビューした人がテーマから離れた答えをした時には編集も必要。
- ・結論を教科書的なものにしようとしている作品が多い。もっと自らの結論を持とう。
- ・アナウンス原稿の構成をなぞったものが多い。

## 創作ラジオドラマ部門

北川敬一様

コンテストに参加した高校生の皆さん。まず作品を完成させたことに敬意を表します。

『楽しく』作品を作ることができましたか。

「大変な思い」をして作りましたか。

「高校生らしい面白い作品」ってどんな作品だろうと考えながら審査をしました。答えは見つかりませんでした。「大変な思い」をして作ることが少し『楽しかった』と感じることが一番大切だと思います。

一つ一つが独特な高校生の作品と出会うことができました。高校生って面白くて「変」な立場ですね！難しいけれどこれからも高校生をじっくり見つめた映像を見せてください。

熊本丈力様

日ごろ中学生の作品・朗読・アナウンスを指導することがあるのですが、今回高校生のレベルの高い高校生らしい番組を聞かせていただきとても勉強になりました。さらにすばらしい番組作りをするために次の3つのことについて考えてほしいと思います。

一つ目は「テーマ」。何を伝えるか、伝えたい相手はだれなのか。まずはこのテーマ設定に力を注ぐこと。

二つ目は「どう伝えるか」。構成・脚本・セリフをどうするか。時間のバランスなどを検討する。

三つ目は「技術」。効果音は適切か。セリフとのバランスはどうか。

「放送」とは「送りっ放し」と書きますが、作品は相手があってそれを届けることが大事です。作品を仕上げるのが目的なのではなく聞き手を常に意識しながらテーマ・脚本・技術を見直した番組作りをしていただきたいと思います。

東海林様

制限時間8分の中にセリフを詰め込みすぎる作品が多く、ラジオドラマの最大の重要点「聞く人の心に伝える」ができない作品がとても多かった。マシンガントークになってしまいセリフの間が作れていない。ラジオドラマは、間で、セリフで、SEで、聞いている人に届ける作品であることを忘れないこと。

教員審査員

- ・背景音とBGM・SEとセリフのバランスをしっかりとるように。
- ・セリフに余裕がなく、マシンガントークになっているので脚本のスリム化を。
- ・聞き手を意識した作品づくりを心がけましょう。
- ・録音技術を研鑽しノイズをうまく処理しよう。

創作テレビドラマ部門

- ・学校内でのドラマが多く、場面の变化に乏しい。
- ・音量のレベルが作りこみ不足、一定していない。カット割りを丁寧にしてほしい。
- ・物語の最後（結論）がよすぎる。
- ・キーとなる黒衣が出てくるストーリーが多い。
- ・同録のチャレンジ精神は良いと思う。
- ・先生役は少ない方が得

## 研究発表部門

倉林由男様

研究発表は奇をてらうことはありません。自分たちが成果を上げたと思うことをわかりやすく説明してください。その点で今回はどの学校もサクサクと噛んで含めるような説明ができていました。とてもよかったです。

教員審査員

- ・どの学校もがんばっている。
- ・パワーポイントを使い、解りやすく説明していた。
- ・説明の声も力があり良かった。説得力があった。
- ・今後の課題・問題点もしっかりと上げている学校もあった。
- ・今年は参加数が多かった。次回はもっと多くの学校に参加していただきたい。
- ・お昼の放送を通して学校活性化させるなどの報告があったが他校の参考になると思います。ぜひ参加を。